

第101期 中間株主通信

平成25年1月1日から平成25年6月30日まで



東亜合成株式会社

01 株主の皆様へ

03 セグメント別概況

05 特集：快適な生活空間を提供する
東亜合成グループの
環境アメニティ製品群

09 トピックス

株主アンケート

抽選で**100**名様に
「アロンアルファ®EXTRA
ゼリー状」と「はがし隊」を
プレゼント

(当選は発送をもって代えさせていただきます)





コスト競争力の強化と将来の成長に向けた投資を着実に実行し、強い収益基盤を持った企業グループを目指してまいります。

代表取締役社長 橋本 太

Q.

当第2四半期連結累計期間の概況についてお聞かせください。

A. 当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府、日銀主導による経済政策を受けた円安、株高の進行により、消費マインドに改善の兆しがみられるものの、外需は、長引く欧州経済の低迷に加え、新興国における景気減速も鮮明になるなど、先行き不透明な状況のうちに推移しました。

当社グループを取り巻く事業環境につきましては、一部の製品で需要持ち直しの兆しが見られるものの、力強い回復までには至らず、円安の進行を受けて原材料価格が上昇するなど、予断を許さぬ状況が続いています。

このような中、当社グループは、グループをあげたコスト削減の徹底に取り組むとともに、各製品の事業環境に応じたきめ細かい販売政策を実施し、収益の確保に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は736億4千3百万円(前年同期比1.1%増収)、営業利益は74億1千3百万円(前年同期比8.0%増益)、経常利益は79億6千8百万円(前年同期比13.1%増益)、四半期純利益は51億1千5百万円(前年同期比4.4%増益)となりました。

ポイント

- 事業環境に応じたきめ細かい販売政策により、前年同期比で増収増益に
- アクリル酸製造設備の増強等、将来の成長に向けた投資は順調に進行
- 当期の中間配当金は5円を実施、年間配当金は前期と同額の10円を計画

Q.

通期の見通しについて
お聞かせください。

A. 一部の製品では需要回復の兆しもみられるものの、円安の進行を受けた輸入資源価格の高騰により原燃料価格の上昇が懸念されます。当社グループとしましては、製品価格の是正を速やかに進めるとともに、引き続き高付加価値製品の拡販、新規市場開拓に努め、収益を確保してまいります。

通期の業績につきましては、売上高は1,500億円(前期比1.2%増収)、営業利益は150億円(前期比2.9%増益)、経常利益は156億円(前期比2.3%増益)、当期純利益は100億円(前期比3.1%増益)を予想しております。

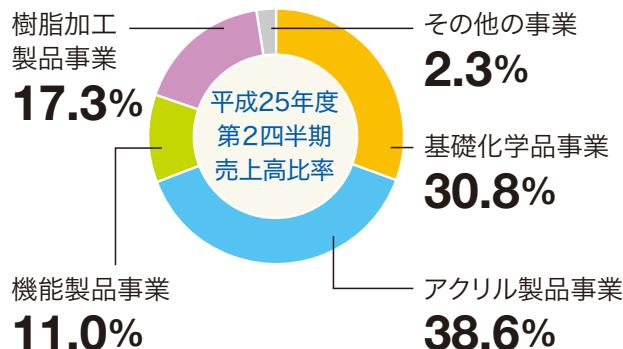
Q.

株主の皆様へメッセージを
お願いします。

A. 本年は中期経営計画『ALL TOA 2013』の最終年度であり、仕上げの年となります。9ページのトピックスでもご紹介しているとおり、大分ケミカル(株)でのアクリル酸製造設備の増設や徳島工場における新規製造技術「ガス拡散電極法」の導入など、コスト競争力の強化や将来の成長に向けた投資は順調に進行しています。引き続き『ALL TOA 2013』に掲げるアクションプランに注力し、強い収益基盤を持った企業グループを目指してまいります。

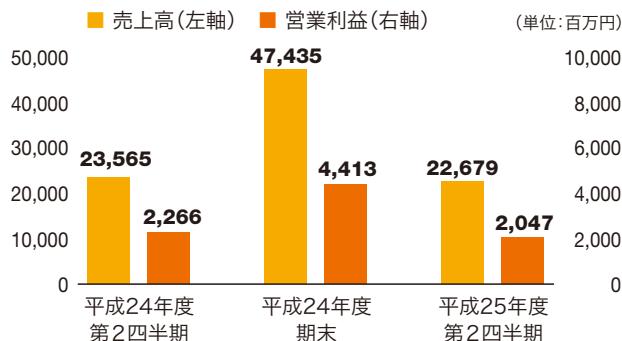
株主の皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

セグメント別売上高比率



基礎化学品事業

苛性ソーダおよび無機塩化物は、全般的な需要の低迷を受けて販売数量が減少し、低調に推移しました。無機高純度品は、半導体向け需要が輸出を中心に回復し、堅調に推移しました。硫酸は、期前半は全般的に需要が低迷したものの、期後半に需要が一部回復し、前年同期並みで推移しました。工業用ガスは、全般的に需要の回復が弱く、低調に推移しました。



セグメント別売上高・営業利益

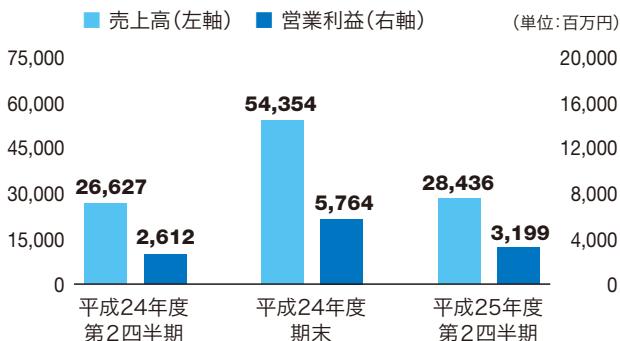
(平成25年度第2四半期)

(百万円)

| | 売上高 | 営業利益 |
|----------|--------|-------|
| 基礎化学品事業 | 22,679 | 2,047 |
| アクリル製品事業 | 28,436 | 3,199 |
| 機能製品事業 | 8,104 | 1,548 |
| 樹脂加工製品事業 | 12,754 | 512 |
| その他の事業 | 1,667 | 41 |

アクリル製品事業

アクリル酸およびアクリル酸エステルは、世界的な需給バランスの逼迫により販売数量が増加し、堅調に推移しました。アクリル系ポリマーは、全般的に底堅い需要に支えられ、堅調に推移しました。高分子凝集剤は、販売価格の下落傾向が続くとともに需要も低迷し、低調に推移しました。光硬化型樹脂「アロニックス」は、全般的な需要の低迷を受けて販売数量が減少し、低調に推移しました。



セグメント別主要製品

● 基礎化学品事業

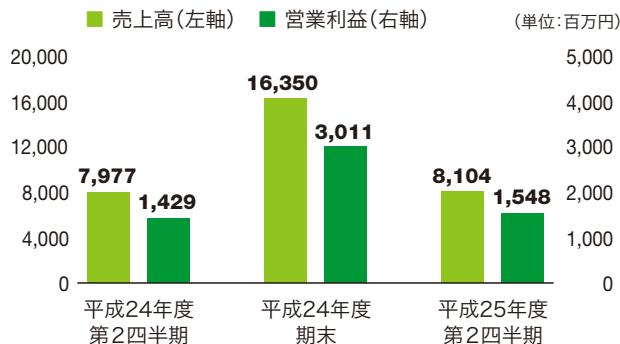
苛性ソーダ、苛性カリ、塩酸・次亜塩素酸ソーダなどの無機塩化物、無機高純度品、硫酸、工業用ガス等

● アクリル製品事業

アクリル酸、アクリル酸エステル、アクリル系ポリマー、高分子凝集剤、光硬化型樹脂等

機能製品事業

接着剤は、一般用瞬間接着剤の需要が底堅く推移するとともに、工業用も携帯端末向けを中心とした機能性接着剤の需要が伸び、順調に推移しました。建築・土木製品は、建築補修材、地盤改良剤ともに堅調に推移しました。無機機能材料は、銀系無機抗菌剤ノバロン®の販売数量が増加し、順調に推移しました。エレクトロニクス材料は、一般的に販売数量が低迷し、低調に推移しました。



● 機能製品事業

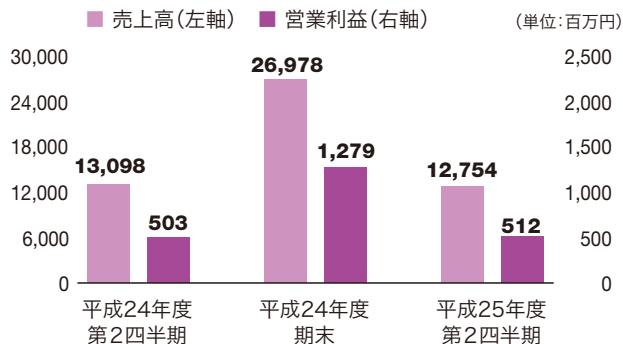
接着剤、建築・土木製品、無機機能材料、エレクトロニクス材料等

● 樹脂加工製品事業

管工機材製品、ライフサポート製品、エラストマーコンパウンド

樹脂加工製品事業

管工機材製品は、需要が一般的に回復し、堅調に推移しました。ライフサポート製品は、介護用品の競争激化と需要低迷により販売数量が減少し、低調に推移しました。エラストマーコンパウンドは、食品向けを中心に販売数量が増加し、堅調に推移しました。



環境アメニティ製品の高い機能性を支える独自技術

環境アメニティ製品は、お客様の加工製品に抗菌・防カビ・消臭等の機能を付加する添加剤です。衣類、インテリア製品、家電製品等あらゆる製品に塗布・練り込み加工され、生活空間で快適機能を発揮します。

粒子制御技術

抗菌や防カビ等、求められる機能に適した粒子の設計技術や、均一な微粒子を創り出す技術で、幅広い用途への展開を可能にします。



均一な微粒子

複合化技術

耐熱性の高い無機物の中に防カビ成分、抗アレルギー成分などの有機物を挟み込み、無機、有機、双方の特長を生かします。

複合化のイメージ図

防カビ成分や抗アレルギー成分などの有機物

無機物に有機物を挟みこみ、複合化



顧客提案型の開発を推進する「技術サービスセンター」



前列左から伊藤 由紀、安藤 聡子

後列左から濱口 雄司、杉浦 晃治センター長、山田 喜直

環境アメニティ製品は、抗菌・防カビ・消臭など、製品の機能が発現されているかを評価するのに特殊な技術を要するため、お客様ではこれらの評価ができないことが多くあります。そこで、これらの評価を私どもが実施し、さらにお客様の製品開発をスムーズに進めていただくため、様々な技術サービスを提供する部署として平成23年8月に技術サービスセンターを設立しました。

同センターでは、抗菌・防カビ・消臭等の機能を発揮するシートなどの二次加工品や消臭マスクなどの末端製品の開発も進めています。環境アメニティ製品を熟知した技術陣による加工品開発により、社会に貢献する製品をこれからも提案していきます。

銀系無機抗菌剤 「ノバロン®」

銀による抗菌力で広範囲の細菌類に効果を発揮します。米国FDA(食品医薬品局)で認可されており、ウイルスに対する不活性効果も有しています。



無機／有機ハイブリッド 防カビ剤「カビノン」

有機系防カビ剤に無機化合物の耐久性や持続性が付加された製品で、広範囲のカビに長期間有効に作用します。



無機系消臭剤 「ケスモン®」

アンモニア、アルデヒドといった生活空間に存在する悪臭成分を化学的に吸着することで、臭気を消臭します。



抗アレルギー剤 「アレリムーブ®」

ダニや花粉などから放出され、繊維製品や各種内装材に付着したアレルギー物質を、吸着し不活性化します。

連結財務諸表(要旨)

貸借対照表

(単位:百万円)

| | 前連結会計年度末 (平成24年12月31日) | 当第2四半期 連結会計期間末 (平成25年6月30日) | 増減額 |
|---------|---------------------------|-----------------------------------|---------|
| 流動資産 | 93,284 | 99,312 | 6,027 |
| 固定資産 | 88,166 | 89,519 | 1,352 |
| ① 資産合計 | 181,451 | 188,831 | 7,379 |
| 流動負債 | 33,789 | 30,913 | △ 2,876 |
| 固定負債 | 11,421 | 15,171 | 3,749 |
| 負債合計 | 45,211 | 46,084 | 873 |
| 純資産 | 136,240 | 142,746 | 6,506 |
| 負債純資産合計 | 181,451 | 188,831 | 7,379 |

損益計算書

(単位:百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日) | 増減額 |
|------------|---|---|-------|
| 売上高 | 72,852 | 73,643 | 791 |
| 売上総利益 | 19,597 | 19,670 | 72 |
| 販売費及び一般管理費 | 12,730 | 12,256 | △ 473 |
| ② 営業利益 | 6,867 | 7,413 | 546 |
| 経常利益 | 7,048 | 7,968 | 920 |
| 特別損益 | 593 | 140 | △ 452 |
| 四半期純利益 | 4,899 | 5,115 | 216 |

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

| | 前第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日) | 当第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日) |
|--------------------|---|---|
| ③ 営業活動によるキャッシュ・フロー | 15,159 | 10,536 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 6,686 | △ 3,511 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,998 | △ 601 |
| 現金及び現金同等物の四半期末残高 | 30,584 | 36,647 |

POINT ①

資産合計は、「現金及び預金」の増加および株式市況の回復により「有価証券」が増加したため、前連結会計年度末に比べ73億7千9百万円、4.1%増加し、1,888億3千1百万円となりました。

POINT ②

グループをあげたコスト削減の徹底に取り組むとともに、各製品の事業環境に応じたきめ細かい販売政策を実施した結果、営業利益は前年同期に比べ5億4千6百万円、8.0%増加し、74億1千3百万円となりました。

POINT ③

法人税等の支払が増加したため、営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同期に比べ収入が46億2千2百万円減少し、105億3千6百万円の収入となりました。

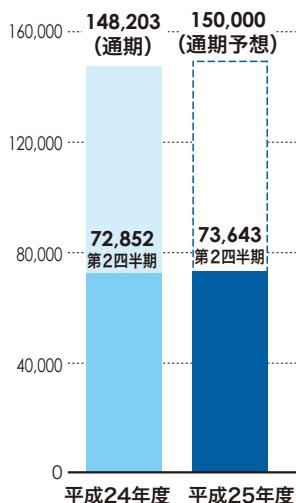
▶ 配当について

当期の業績、今後の事業展開、業績の進展等を総合的に勘案し、当第2四半期末の配当金は1株当たり5円といたします。年間では10円の配当を予定しております。

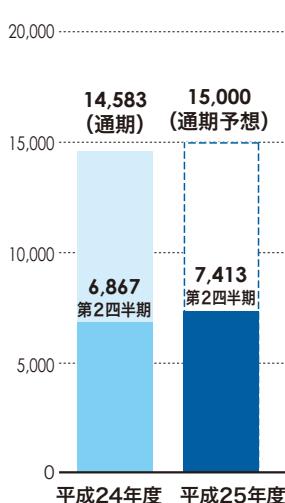
平成25年度第2四半期

(単位:百万円)

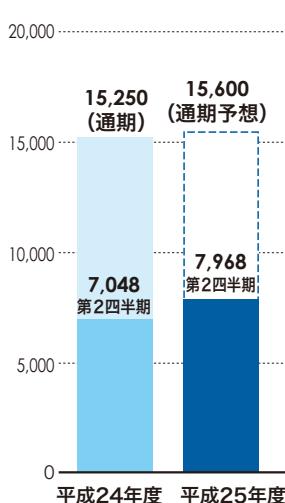
売上高



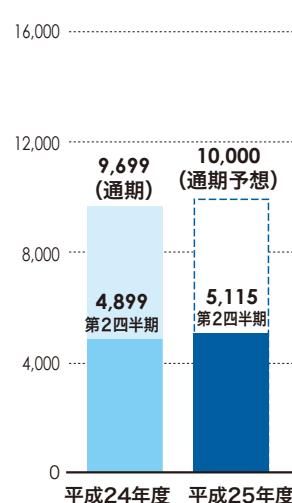
営業利益



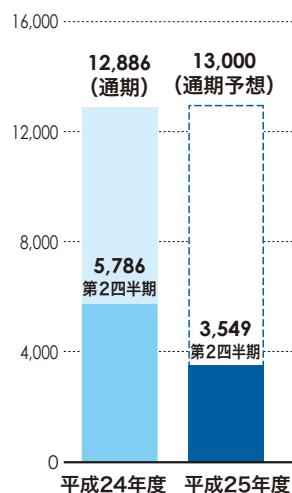
経常利益



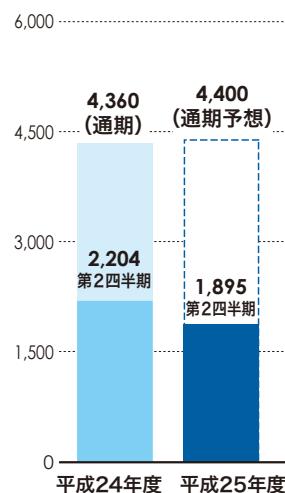
当期純利益



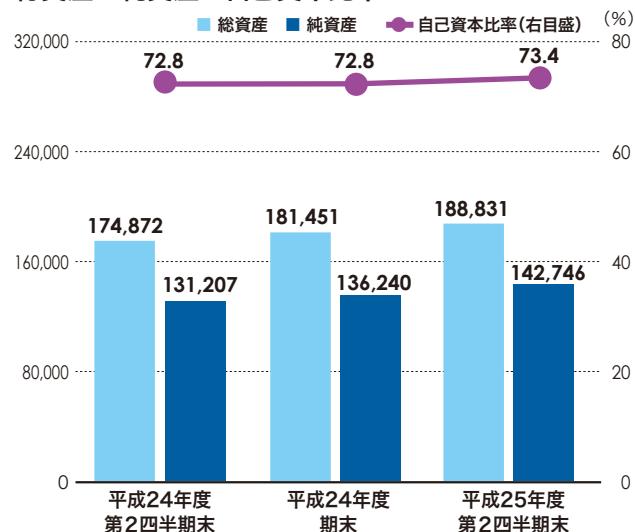
設備投資額



研究開発費



総資産・純資産・自己資本比率



「アクリル酸製造設備の増強工事」順調に進行中

大分ケミカル(株)では、平成26年1月の完成に向けてアクリル酸製造設備の増強工事(年産8万トン)が順調に進んでいます。

アクリル酸は、当社グループのアクリル製品事業において、各製品の出発点となる重要な原料です。事業全体を拡大していくための基盤強化と位置づけられる大型投資であり、グループの総力をあげて取り組んでいます。

今回、事業の競争力を高めるための施策として、製造設備の核となる「一体型反応器」を導入します。従来は2つの反応器を使ってアクリル酸を製造していましたが、これを1つにまとめた「一体型反応器」を導入し、製造プロセスを変更することで、生産効率の向上を図ってまいります。



一体型反応器

新規製造技術「ガス拡散電極法」の導入

当社グループの主力事業である電解事業では、塩水を電気分解し、苛性ソーダと塩素を生産しています。この電解事業において、次世代の製造技術として期待される「ガス拡散電極法」の事業化に向けて、当社グループは(株)カネカと共同で実証試験を進めてまいりました。その「ガス拡散電極法」を使用した製造設備を、徳島工場に一部導入し、本年7月より商業運転を開始しました。

ガス拡散電極法は、従来の電極を使用した製法と比べ、電気分解時の電力使用量を3分の2まで抑制できる画期的な技術です。本技術の導入による電解事業の競争力強化が期待されており、今後は、徳島工場におけるさらなる導入や名古屋工場、横浜工場での導入も検討してまいります。



ガス拡散電極電解槽

会社概要

本店所在地／〒105-8419 東京都港区西新橋一丁目14番1号

電話 (03)3597-7215(代表)

設立／昭和17年3月31日

資本金／20,886百万円

従業員／連結2,485名

単独1,093名

取締役および監査役

| | |
|---------|-----------|
| 代表取締役会長 | 山 寺 炳 彦 |
| 代表取締役社長 | 橋 本 太 |
| 取締役 | 山 田 勝 敏 |
| 取締役 | 野 村 聡 一 |
| 取締役 | 小 関 健 一 |
| 取締役 | 高 村 美 己 志 |
| 取締役 | 中 川 和 明 |
| 取締役 | 杉 浦 伸 一 |
| 取締役(社外) | 滝 澤 英 一 |
| 監査役(常勤) | 佐 藤 邦 雄 |
| 監査役(社外) | 佐 藤 勝 二 |
| 監査役(社外) | 三 浦 良 一 |
| 監査役(社外) | 原 一 夫 |

株式の状況

| | |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 550,000,000株 |
| 発行済株式総数 | 263,992,598株 |
| 株主数 | 23,235名 |

大株主の状況

| 株 主 名 | 株数(千株) | 出資比率(%) |
|---|--------|---------|
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) | 13,668 | 5.19 |
| 株式会社三井住友銀行 | 11,636 | 4.41 |
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) | 10,621 | 4.03 |
| 東亜合成取引先持株会 | 7,600 | 2.88 |
| ザバンク オブ ニューヨーク トリーティー ジャステック アカUNT | 6,683 | 2.54 |
| 東亜合成グループ社員持株会 | 6,051 | 2.30 |
| 株式会社三菱東京UFJ銀行 | 5,648 | 2.14 |
| 農林中央金庫 | 3,944 | 1.50 |
| 三井生命保険株式会社 | 3,691 | 1.40 |
| メロンバンク エヌイーアズ エージェントフォー イッツ クライアント メロン オムニバス ユーエス ベンション | 3,564 | 1.35 |

出資比率は、自己株式(418,696株)を控除して計算しております。

株式所有者別分布状況



※「個人・その他」には自己株式が含まれております。

東亜合成グループの主な関係会社

| セグメント別 | 主な関係会社 |
|----------|--|
| 基礎化学事業 | 東亜テクノガス(株)、東亜合成KOREA(株) |
| アクリル製品事業 | 大分ケミカル(株)、トウアゴウセイ・シンガポール・ビーティーイー・リミテッド、台湾東亜合成股份有限公司、東昌化学股份有限公司、張家港東亜迪愛生化学有限公司、MTアクアポリマー(株) |
| 機能製品事業 | トウアゴウセイ・アメリカ・インク、東亜合成香港有限公司、東亜合成(珠海)有限公司、アロンエバークリップ・リミテッド、アロン包装(株)、エルマーズ・アンド・トウアゴウセイ・カンパニー、東亜建装(株)、MTエチレンカーボネート(株) |
| 樹脂加工製品事業 | アロン化成(株)、ミクニプラスチック(株) |
| その他の事業 | (株)TGコーポレーション、TOAエンジニアリング(株)、東亜ビジネスアソシエ(株)、東亜興業(株)、東亜物流(株)、北陸東亜物流(株)、四国東亜物流(株) |



アンケートにご協力ください
抽選でアロンアルファ®とはがし隊をプレゼント!!



株主アンケート

アンケート実施期間 **平成25年9月30日まで**

当社では、株主の皆様への情報開示の充実に努め、当社の経営をより一層ご理解いただけるIR活動を行っていきたくと考えています。つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、右記アンケートサイトにアクセスしていただき、アンケートにご協力いただけますようお願い申し上げます。
なお、ご回答いただきました内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的には使用いたしません。

このアンケートは、諸費用（郵便料金など）の削減と集計作業の迅速化を目的として、株式会社アイ・アール ジャパン（IR支援会社）が運営するWebアンケートシステム「株主ひろば」を利用して実施しています。



【ご回答の操作方法等のお問い合わせ先】

株式会社アイ・アール ジャパン
株主ひろば事務局 E-mail: inquiry@kabuhiro.jp

アンケートサイト(画面)への接続方法

Yahoo!やGoogleなどからアンケートサイトを呼び出してください。

株主ひろば 検索 URL <http://kabuhiro.jp>

ご回答方法

アンケートサイト(www.kabuhiro.jp)画面中央の入力ボックスに、アンケートナンバーを入力して回答画面にお進みください。



株主メモ

- 事業年度…………… 毎年1月1日から12月31日まで
- 定時株主総会…………… 毎年3月に開催
- 基準日…………… 定時株主総会・期末配当 毎年12月31日
中間配当 毎年 6月30日
- 公告の方法…………… 電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができない事故
その他のやむを得ない事由が生じたときは、
日本経済新聞(東京)に掲載します。
公告掲載URL (<http://www.toagosei.co.jp/>)
- 株主名簿管理人…………… 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 特別口座の
口座管理機関…………… 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- 郵便物送付先…………… 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) **0120-782-031** (フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店
および全国各支店で行っております。

ご案内

住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

各種手続用紙のご請求について(特別口座の株主様)

以下の手続用紙のご請求については、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社のインターネットで24時間お受けしております。

■ ホームページアドレス

<http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

- ・ 口座振替申請書 ・ 単元未満株式買取請求書
- ・ 配当金振込指定書(特別口座用) ・ 変更届(住所・氏名・届出印等)

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

「配当金計算書」について

配当金のお支払いの際に送付している「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねており、確定申告を行う際の添付資料としてご使用いただくことができます。確定申告を行われる株主様は、大切に保管してください。